

——国家的・非国家的とは何か——	法制史学会編 「刑罰と国家権力」	35—4
中華人民共和国婚姻法	新比較婚姻法 I 東洋	35—6
中国の新しい法と道德	国際法律家連絡協会編 「中国の法と社会」	35—7
明末徽州の庄僕制 ——とくに労役婚について	和田博士古稀記念 東洋史論叢	36—2
吐魯番発見の唐代租田文書の二形態	東洋文化研究所紀要 23	36—2
飯塚浩二		
* わが国土 第12巻 (吉川虎雄と共著)	国民図書	31—12
* 世界と日本——明日のための人文地理 ——下巻 (編著)	大修館	32—6
* アジアのなかの日本	中央公論社	35—6
* 社会 上・下 (編著)	有斐閣	35—12 36—3
* 千代田区史 (編著)	千代田区役所	35—3
戦後の農地改革と日本の農業	東洋文化 24	32—3
賃労働者になりそこなった資本家	中央公論	32—3
ネールさんと日本・ネールさんとインド	世界	32—12
東南アジア問題の新しさ ——低開発国の経済について——	世界	33—5
日・中友好再建の前提	中央公論	33—7
Some General Remarks on Attitudes in Asian Studies, with special reference to Modern Japan	東洋文化研究所紀要 16	33—12
アデレード学会のついでに	地理	34—1
Postwar Land Reform and Japanese Agriculture	Proceedings of IGU Regional Conference in Japan 1957	34—6
Geographical Problems of Southeast Asia	Proceedings of IGU Regional Conference in Japan 1957	34—6
アジアの社会構造の特色	日本エカフェ協会編 「アジア経済発展の基礎理論」	34—6
オーストラリア・ニュージーランド紀行	世界の旅・日本の旅	34—9, 10
アジア研究について	東洋文化 28	34—12
アジア研究と先進資本主義国用のいわ ゆる一般理論について	河西太一郎記念論文集	35—2
極東・東亜・近西	中央公論	35—4
日本の国際信用は果して下ったか	中央公論	35—8

アメリカ人のみた日本, 日本人のみた日本	思 想		35—9
What exists between Oriental and Occidental History?	East and West (ISMEO, Roma)	12—1	36—3
近代日本への関心 ——南アジア・西アジアの人々の場合——	歴史学研究	253	36—5
The Originality of Japanese Capitalistic Society	Pacific Viewpoint	2—2	36—9

結 城 令 聞

中国仏教の形成	「中国の仏教」(大蔵出版)		33—3
隋唐の中国的新仏教組織の一例としての華嚴法界観門について	印度学仏教学研究	6—2	33—3
三たび教行信証の信巻別撰を論ず	印度学仏教学研究	7—2	34—3
隋・西京禅定道場積曇遷の研究 ——中国仏教形成の一課題として——	福井博士頌寿記念 東洋思想論集		35—11
観経疏に於ける善導釈義の思想史的意義	塚本博士頌寿記念 仏教史学論集		36—2

江 上 波 夫

* 北アジア史 (編著)	「世界各国史」 (山川出版社)	12	31—11
* 古代初期 (編著)	「世界美術全集」 (平凡社)	2	33—1
* 日本民族の起源 (共著)	平凡社		33—1
* テル・サラサート・I (編者) (東京大学イラク・イラン遺跡調査報告書 I)	東洋文化研究所		33—3
* 館址——東北地方における集落址の研究 (共著)	東京大学出版会		33—3
* オリエント (編著)	朝日新聞社		33—10
* 西アジア・I (編著)	「世界考古学大系」 (平凡社)	10	34—1
* 東西文化の交流 (編)	「図説世界文化史大系」 (角川書店)	26	35—7
* 文明の源流をもとめて (共著)	美術手帖	168	35—1
* ヨーロッパ・アフリカ (編著)	「世界考古学大系」 (平凡社)	12	35—12
東北地方における館址の調査予報 (共著)	東洋文化研究所紀要	11	31—11
イラン文化の重要性	ミュージアム	87	33—6
イラン先史土器文化の変遷	東洋文化	26	33—12
テルール・アッ・サラサート第二丘遺跡で発見された穀倉について	民族学研究	22—1・2合	33—3
古代西アジアの歴史・民族・美術	三 彩	101	33—6

Casia Regio and Seres	International Symposium on History of Eastern and Western Cultural Contacts	34—11
Figurative Pottery of Prehistoric Iran	Orient : The Report of the Society for Near Eastern Studies in Japan. Vol. 1.	35—11
植 田 捷 雄		
アメリカと中共——特に台湾問題をめぐ って——	ア ジ ア 研 究	3—3 31—10
日本をめぐる領土問題 ——千島・南 樺太・台湾及び沖縄の法的地位——	東洋文化研究所紀要	11 31—11
中国のナショナリズム	世界経済調査会「ナシ ョナリズムの研究」	31—12
中国の租借地	国際法外交雑誌	56—4・5 33—2
連合国の対日終戦計画	日本外交学会編、植田監修 「太平洋戦争終結論」第8章	33—3
韓国併合をめぐる国際関係 ——韓国独立運動史序説——	横田喜三郎教授還暦祝賀論 文集「現代国際法の課題」	33—4
東洋の敗北と抵抗の歴史 ——植民地化と民族主義——	東洋思想講座	2 33—7
日本近代化と国際法	日本近代史学	1 33—8
チベット問題をはらむ中印関係	共産圏問題(季報)	4—2 35—6
近代中国における戦争と中立	国際法外交雑誌	56—1・2 35—7
中ソ論争の現状と将来	日本外政学会編 「中共政権の現状分析」	36—4
米 沢 嘉 圃		
* 宋の花鳥画	平 凡 社	31—12
* 中国の美人画	平 凡 社	33—5
* 中国の絵画	平 凡 社	35—10
中国古代における顔料の産地	東洋文化研究所紀要	11 31—11
伝趙令穰筆秋塘図について	大 和 文 華	31 34—10
長谷川等伯筆松林図の画風について	国 華	814 35—1
水墨画の成立	「世界の歴史」(筑摩書房)	6 36—3
山 本 達 郎		
* 歴史の見方	三 省 堂	32—10

*インド史 (編著)	山川出版社	35—11
A Tun-huang Manuscript of the Sixth Century A. D. concerning the chün-t'ien land system (1)	Memoirs of the Research Department of the Toyo Bunko	34—
The Land System of Vietnam: Công-điền and Quân-điền	Akten des Vierundzwanzigsten Internationalen 18 Orientalisten-Kongresses	34—
越南の家譜	和田博士古稀記念東洋史論叢	36—2
デリー諸王朝時代の遺蹟	東 方 学 21	36—3
From T'ang to Sung—A Transitional Period in East Asian History	Rapports du XIe Congrès International des Sciences Historiques	35—
丸 山 真 男		
*現代政治の思想と行動 (上・下)	未 来 社	31—12 32—3
反動の概念	講座「現代思想」(岩波書店) 5	32—7
日本の思想	講座「現代思想」(岩波書店) 11	32—11
開 国	講座「現代倫理」(筑摩書房) 11	34—1
近代日本の思想と文学	講座「日本文学史」(岩波書店) 5	33—10
忠誠と反逆	「近代日本思想史講座」(筑摩書房) 6	35—2
川 野 重 任		
*日本の経済と農業・下巻 (東畑精一と共編)	岩 波 書 店	31—12
*現代農業分析の展望 (大川一司と共編)	大 明 堂	33—8
*シュルツ・農業の経済組織 (馬場啓之助と共監訳)	中 央 公 論 社	33—7
土地改革の社会経済的意義——東南アジア諸国の場合——	東洋文化研究所紀要 10	31—11
雇 用 ——低所得就業——	「現代農業分析の展望」	33—8
市場構造と農業構造	「日本の経済と農業」下巻	33—12
農 地 改 革	経済主体性講座・経済II	35—9
アメリカにおける低所得就業論	「過剰就業と日本農業」	35—10
経済成長と産業部門別生産性	東 洋 文 化 31	36—3
石 田 英 一 郎		
*日本民族の起源 (共著)	平 凡 社	33—1

* 人類学概説 (共著)	日本評論新社	33—7
* 文化人類学序説	時潮社	34—10
文化人類学問答	民族学研究 21—3	32—8
The Island of Women	Japan Quarterly 4—4	32—10
Historical Materialism and Culture Anthropology—With Special Reference to the Structure of Culture and Human Nature	Japan Science Review, Literature, Philosophy 9 and History	33—2
アメリカ大陸の古代文明	「世界史大系」 (誠文堂新光社) 2	33—4
女人島の話	「日本民俗学大系」 (平凡社) 12	34—5
未開民族	「世界史大系」 (誠文堂新光社) 1	34—5
日本の人類学概観	「日本の民族・文化」	34—6
メソアメリカの古代文明	「世界考古学大系」 (平凡社) 15	34—10
文化とは何か	「現代文化人類学」 (中山書店) 2	34—12
世界史における発展段階そのほか	歴史評論	35—2
馬と戦車	「図説世界文化史大系」 (角川書店) 26	35—6
文化人類学における比較 ——方法論的覚え書——	比較文化研究 (東京大学教養学部)	36—2
永遠の日本人 ——日本民族文化の起源論によせて——	中央公論社	36—7
小野 忍		
* 現代の中国文学 (編著)	毎日新聞社	33—5
** 趙樹理「李家荘の変遷」	岩波書店	33—9
** 金瓶梅 (共訳)	平凡社	(上) 34—7 (中) 35—4 (下) 35—12
** 茅盾「腐蝕」	岩波書店	36—2
外国における魯迅	「魯迅案内」(岩波書店)	31—10
革命文学	倉石武四郎・竹田復編 「中国文学史の問題点」 (中央公論社)	32—6

福 島 正 夫

* 明治26年全国山林原野入会慣行調査資料・熊本県(共編)	林野庁プリント		32—3
* 中国の裁判	東洋経済新報社		32—9
* 明治26年全国山林原野入会慣行調査資料・群馬県(共編)	林野庁プリント		32—11
* 林野入会権の本質と様相 下 ——岐阜県吉城郡小鷹利村の場合——	林野庁プリント		33—7
* 明治26年全国山林原野入会慣行調査資料・青森県(共編)	森林所有権研究会プリント		33—10
* 林野入会権の本質と様相 資料集	林野庁プリント		33—11
* 家制度の研究 資料篇 I (編著)	東京大学出版会		34—3
* 戸籍制度と「家」制度(編著)	東京大学出版会		34—6
* 権利関係を中心とした部落有林目録	林 野 庁		35—3
* 人民公社の研究	御茶の水書房		35—11
** コルガーノフ「社会主義社会における所有」上(共訳)	有 斐 閣		34—5
部落有林野の形成	東洋文化研究所紀要	10	31—11
日本資本主義と抵当制度の発展(共著)	法 律 時 報	28—11	31—11
明治初年の地方官と郡政改革	地 方 史 研 究	12	31—12
The Large Family in a Mountain Village and Capitalism	The Japan Annual of Law & Politics	5	32—3
地租改正と家族制度	明治史料研究連絡会編 明治史研究双書「地主制の形成」(お茶の水書房)		32—5
中国における親子間の新道徳	講座「家族問題と家族法」(酒井書店)月報	3	32—8
ソヴェト法における民主と集中	比 較 法 研 究	15	32—11
法 と 調 査	別冊法律時報「法と社会」		32—11
明治以後の戸籍制度の発展(共著)	講座「家族問題と家族法」(酒井書店)	7	32—11
明治民法典における損害賠償規定の形成	我妻先生還暦記念 論文集 上(有斐閣)		32—12
社会主義法の現在的な諸問題(上・下)	思 想	402, 410	32—12 33—8
財産法(法体制準備期)	講座「日本近代法発達史」(勁草書房)	1	33—2
岡松参太郎博士の台湾旧慣調査と華北農民慣行調査における末弘巖太郎博士	東 洋 文 化	25	33—3

地方体制と戸籍制度 ——山梨県の場合——	東洋文化研究所紀要	15	33—3
中国法の本質と裁判	東京大学新聞		33—4
社会主義的相統制度の発展 ——その立法および理論について——	山之内先生還暦記念論文集		33—9
金融法（法体制確立期）（共著）	講座「日本近代法発達史」（勁草書房）	6	34—1
国家機構における民主集中制と政党 ——全国人民代表大会の諸問題——	法律時報	31—1	34—1
明治6年の地方官会同と地租改正	東洋文化研究所紀要	18	34—3
人民公社の法的地位	東洋文化	27	34—3
ソビエト法入門（1～11）	法学セミナー	37～42 44～48	34—4～9 34—11～35—3
所有制からみた人民公社	中国研究所編「中国 社会主義の研究」		34—7
なぜ中国で紙が不足になったか	大 安	5—10	34—10
金融法（法体制再編期）（共著）	講座「日本近代法発達史」（勁草書房）	8	34—12
水害にうちかつ中国の農民たち	子どものしあわせ	46—1	35—1
ソビエト労働法の発展と その法典化の新段階 ——「ソ同盟ならびに加盟共和国の労働 立法の基礎」草案の発表に際して——	法律時報	32—3	35—2
The Formation of the Institution of “Iye” in the First Half of the Meiji Period	The Japan Annual of Law & Politics	6	35—3
人民公社とコルホーズ	東洋文化研究所紀要	21	35—3
中国における労働者の変革と 労働の新組織 ——発展する中国労働法のルポルタージュ——	東洋文化研究所紀要	21	35—3
人民公社の所有制ならびに人民公社と コルホーズ	亜細亜農業技術交流 協会編「中国農業の 展開に関する研究」	4	35—3
人民公社の実態	国際法律家連絡協会編 「中国の法と社会」 （新読書社）		35—7
中国における法学の教育と研究	国際法律家連絡協会編 「中国の法と社会」 （新読書社）		35—7
司法制度	アジア政経学会編「中 国政治経済総覧」 （一ツ橋書房）		35—10
ソ連における現代中国研究資料	大 安	7—2	36—2
地租改正法の成立	東洋文化研究所紀要	24	36—3

財閥家憲と家制度	日本法社会学会編 「家族と法」(有斐閣)		36—8
「人民公社化運動」について	書 報		36—8
社会主義社会における相続問題	講座「家族問題と家 族法」(酒井書店)	3	36—9
人民民主統一戦線と人民民主独裁 ——民族ブルジョアジーの側面から——	東洋文化研究所紀要	25	36—10
橋 本 秀 一			
第一次五年計画下の中国農業増産工作	東洋文化研究所紀要	17	34—3
東南アジアの輸出構成と一次産品問題	東 洋 文 化	30	34—3
小 口 偉 一			
* 創 価 学 会 (共著)	青 木 書 店		32—8
* 宗教と信仰の心理学 (編著)	河 出 書 房		31—7
* 宗教と民衆生活 (編著)	三 一 書 房		34—5
** グレンステッド「宗教の心理学」 (共訳)	社会思想研究会出版部		36—4
呪術的宗教調査報告 (稿本)	文 部 省 調 査 局		31—10
宗教学五十年の歩み	宗 教 研 究	147	31—3
明治時代の神道	「日本文化史大系」(小学館)		31—9
呪 術 的 宗 教	東洋文化研究所紀要	12	32—3
大正・昭和初期の宗教	「日本文化史大系」(小学館)		32—9
奄美のノロとユタ	人 類 科 学	10	33—2
新 興 宗 教	講座「現代倫理」(筑摩書房)		33—9
新興宗教の教理	「新興宗教」(神社新報社)		34—12
The Problem of Man in Religion	Religious Studies in Japan		34—3
隠岐の祈禱師	国 学 院 雑 誌	61—2・3	35—3
現代イスラム研究の問題	東 洋 文 化	29	35—3
Founder and Organizer of Religious Group	Proceedings of the IXth International Congress for the History of Religions		35—8
宗教的リーダーシップの問題	宗 教 研 究	166	36—1

窪 徳 忠

* 庚申信仰	東洋文化研究所 (山川出版社)		31—11
* 庚申信仰の研究 ——日中宗教文化交渉史——	日本学術振興会		36—3
一貫道補考 ——一貫道是什麼東西の紹介——	東洋文化研究所紀要	11	31—11
中国の道教と日本の庚申待	国際東方学者会議紀要	1	32—5
庚申信仰と北斗信仰	民族学研究	21—3	32—8
広島県下の庚申信仰	芸備地方史研究	28	33—12
全真教団成立に関する一考察	宗 教 研 究	157	33—12
守庚申と庚申待	社会と伝承	3—1	34—1
庚申信仰年譜	東洋文化研究所紀要	17	34—3
Introduction of Taoism to Japan	Japanese Association for Religions Studies & Japanese Organizing Committee of IX ICHR		34—3
中国の信仰の影響と民俗 ——庚申信仰について——	日本民族学大系 (平凡社)	8	34—12
庚申信仰研究法私見 ——日本民俗学者の批判に答う——	民族学研究	24—1, 2	35—3
中国と日本の民俗	東 亜 時 論	2, 3	35—3
三尸説と日本の庚申信仰	東 方 学	20	35—6
The Transmission of Taoism to Japan. ——With Particular Reference to the San-shih ()	Proceedings of the IXth International Congress for the History of Religions		35—8
老子守庚申求長生経について	福井博士頌寿記念 東洋思想論集		35—11
宋代における道教とマニ教	和田博士古稀記念 東洋史論叢		36—2
庚申信仰と仏教 ——庚申宝巻を中心として——	塚本博士頌寿記念 仏教史学論集		36—2

西 嶋 定 生

* 中国史の時代区分 (共編)	東京大学出版会		32—5
* 中国古代帝国の形成と構造 ——二十等爵制の研究——	東京大学出版会		36—3
魏の屯田制 ——特にその廃止問題をめぐって——	東洋文化研究所紀要	10	31—11

歴史的省察の仕方について	理想	283	31—12
中国古代社会の構造的特質に関する問題点 ——中国史の時代区分論争に寄せて——	「中国史の時代区分」 (東京大学出版会)		32—5
中国史の特質	「中国年鑑」(1959年版)		34—5
吐魯番出土文書より見たる均田制の 施行状態 ——給田文書・退田文書を中心として——	西域文化研究会編「敦煌・ 吐魯番社会経済資料(上) ——西域文化研究第二——」 (法蔵館)		34—3
唐代均田制の施行状態 ——給田文書・退田文書・欠田文書の発見 とその内容——	歴史学研究	233	34—9
吐魯番出土文書より見たる均田制の 施行状態 ——補遺・補正——	西域文化研究会編「敦煌・ 吐魯番社会経済資料(下) ——西域文化研究第三——」(法蔵館)		35—3
秦漢帝国の出現 ——中国古代帝国形成史論序説——	「世界の歴史」 (筑摩書房)	3	35—11
北齊河清三年田令について	和田博士古稀記念 東洋史論叢		36—2
松 本 善 海			
**明史食貨志訳註(和田清編) 序 戸口の一部	東洋文庫		32—3
北魏における均田・三長兩制の制定を めぐる諸問題	東洋文化研究所紀要	10	31—11
北朝における三正・三長兩制の関係	和田博士古稀記念 東洋史論叢		36—2
関 野 雄			
* 館 址 ——東北地方における集落址 の研究——(共著)	東洋文化研究所 東京大学出版会		33—3 33—8
* 世界考古学大系 5 東アジア I 先史時代(編)	平凡社		35—9
東北地方における館址の調査予報(共著)	東洋文化研究所紀要	11	31—11
中国古代の金属文化	歴史教育	5—3	32—3
中国における新出土品の管理	弥 生	5	32—9
「国家」の起源	古代文化	1958—1	33—1
中国の考古学界	法 政	7—3	33—3
殷周王朝の文化, 春秋戦国時代の文化	「世界史大系」 (誠文堂新光社)	2	33—4

中国の博物館	上代文化	28	33—6
布銭の出土と出土状態について	東洋学報	41—2	33—9
鉄器の出現と生産の拡大 ——生産用具——	「世界考古学大系」 (平凡社)	6	34—8
墳墓の構造 ——墳丘, 槨棺, 石闕, 石人, 石獸——	「世界考古学大系」 (平凡社)	7	34—8
先秦時代の農耕具	日本考古学協会第24 回総会研究発表要旨		34—10
新耒耜考	東洋文化研究所紀要	19	34—12
新耒耜考余論	東洋文化研究所紀要	20	35—3
饕餮文異形盃	国華	69—9	35—9
盧氏涅金考	和田博士古稀記 念 東洋史論叢		36—2
竜山文化の解明	駿台史学	11	36—3
荒 松 雄			
* 現代インドの社会と政治 ——その歴史的省察——	弘文堂		33—9
インド民族主義の歴史的問題	講座「現代思想」 (岩波書店)	3	32—4
インドの「社会改革」とガンディー	思想	394	32—4
「奴隷王朝」前期の「奴隷貴族」について ——Tabaqāt-i Nāsiri にみえる二十五人の Shamsī mulūk を中心に——	東洋学報	40—4	33—3
ガンディー ——人と作品——	講座「現代倫理」 (筑摩書房)	7	33—9
無抵抗 ——ガンディーの抵抗について——	「東洋思想講座」 (至文堂)	4	33—10
築 島 謙 三			
* ことばの本性 ——その心理学的考察——	法政大学出版局		34—7
** グジンデ・アフリカの矮少民族 ——ピグミーの生活と文化——	平凡社		35—3
ハーンの日本文化観 ——「日本の面影」を書くまでのハーンにつ いて——	東洋文化研究所紀要	11	31—10
文化と伝承, 文化と人格, 国民性	千輪浩監修「社会心 理学」(誠信書房)		32—4
未開社会の芸術	「芸術心理学講座」 (中山書店)	1	32—4

ことばと人間	「講座現代国語学」 (筑摩書房)	1	32—11
日立鉾山部落の人間関係に関する 文化心理学的調査報告	東洋文化研究所紀要	13	32—11
芸術の発生	「芸術心理学講座」 (中山書店)	4	32—12
未開人のことば	「コトバの科学」 (中山書店)	1	33—5
言語	「現代社会心理学」 (中山書店)	2	34—3
北吉見村住民のパーソナリティー	東洋文化研究所紀要	18	34—3
文化の心理	波多野・沢田編「現代心理学ハンドブック」 (学芸書房)		34—4
文化の超有機性についての考察	民族学研究	23—3	34—7
文化人類学における性格の問題	「性格心理学講座」 (金子書房)	1	36—3
ハーンの日本文化観 ——熊本滞在から「日本」の完成まで——	東洋文化研究所紀要	23	36—3
中 根 千 枝			
Cross-Cousin Marriage among the Garo in Assam	Man		32—1
ナヤール母系大家族制の崩壊について	東洋文化研究所紀要	14	33—3
ヒマラヤにおける複合社会の研究	民族学研究	22—1, 2 合	33—4
山 崎 利 男			
古典ヒンドゥー法の家産分割規定	東洋文化研究所紀要	12	32—3
古典ヒンドゥー法の婦女の家産相続 および Stridhana に関する規定	東洋文化研究所紀要	13	32—11
五・六世紀ベンガルの土地売買文書に ついての若干の問題	東洋文化研究所紀要	18	34—3
深 井 晋 司			
ペルシアの遺跡	別冊みづゑ	20	33—5
ペルシア美術の東方への影響	三 彩		33—6
イラン高原における美術調査(1956年)	東 洋 文 化	26	33—12
ハトラ出土の遺物とパルティア美術	東洋文化研究所紀要	16	33—12
正倉院宝物白瑠璃碗考	国 華	812	34—11

A Persian Treasure in the Shoso-in Repository	Japan Quarterly	7—2	35—4
The Artifacts of Hatra and Parthian Art	East and West (ISMEO)	11—2, 3	35—6

中 村 平 次

ガンディーとインド・ナショナリズム	思 想	394	32—4
第一次非暴力的抵抗運動について	歴史学研究	225	33—11
第一次世界大戦とインド	「世界史大系」 (誠文堂新光社)	15	34—2
近代インド政治思想の史的考察 ——B. G. ティラクの生涯とその思想——	東 洋 文 化	28	34—12
ビピン・チャンドラ・パールの 政治思想について	東洋文化研究所紀要	20	35—3
インド側に見た日本の政治危機	思 想	435	35—9
インドにおける現代インドの研究 ——方法論上の諸問題——	東 洋 文 化	31	36—6
国際政治におけるインドの地位	季刊 国際政治		36—7

関 寛 治

1917年ハルビン革命 ——ハルビン・ソヴェト樹立をめぐる 国際政治学的考察—— (一・二)	国際法外交雑誌	57—3, 4	33—8, 9
1917年ハルビン革命 ——中国軍出兵をめぐる外交過程・ シベリア出兵史序説——	季刊 国際政治		33—9
国際政治学における数学的方法 ——ゲーム理論を中心として——	季刊 国際政治		34—6
泰国を中心とする印象から ——未開発国をとらえる国際政治の フレームワークについて——	ア ジ ア 研 究	7—2	35—11

鎌 田 茂 雄

法蔵撰華嚴經問答について	印度学仏教学研究	7—2	34—3
梁の武帝と隋の文帝	宗 教 公 論	29—5, 10	34—6 34—12
新道教の形成におよぼした禅の影響	宗 学 研 究	2	35—1
華嚴哲学の根本的立場	中村元編「華嚴 思想」(法蔵館)		35—2
華嚴学の典籍および研究文献	中村元編「華嚴 思想」(法蔵館)		35—2
華嚴思想史よりみた遼代密教の特質	印度学仏教学研究	8—2	35—3

澄観における禅思想の形成	印度学仏教学研究	9—2	36—3
澄観の華厳と老荘思想	駒沢大学仏教学部紀要	19	36—3
古賀正則			
インドの農業改革の推移	東洋文化	28	34—12
西パキスタンにおける土地改革	東洋文化研究所紀要	24	36—1
パキスタンの労働事情(共著)	アジア経済研究所 調査研究報告双書	11	36—3
西川正二			
呉・南唐両王朝の国家権力の性格 ——宋代国制史研究序説のために 其の——	法制史研究	9	34—3
近藤邦康			
清末変法論と譚嗣同の思想 ——変法と聖人之道——	史学雑誌	69—7	35—7
板垣雄三			
近代史の方法のためのプロローグ	歴史学研究	250	36—2
アラブ連合共和国における近代化政策	アジア経済研究所 調査研究報告双書	12	36—3
アラブの覚醒	「世界の歴史」(筑摩書房)	7	36—4
木山英雄			
水滸伝の世界	「世界の歴史」(筑摩書房)	6	36—3
松丸道雄			
「1958—1959年殷墟発掘簡報」について	甲骨学	9	36—8
日本散見甲骨文字蒐彙(三)	甲骨学	9	36—8
甘粕健			
イラン、ギラーン州デーラマニスターンの遺跡調査	考古学雑誌	47—1	37—6
周藤吉之			
宋代の典小作制	法制史研究	7	32—3

佐伯 有 一

明代匠役制の崩壊と都市絹織物業市場の展開	東洋文化研究所紀要	10	31—11
わが国の明清時代研究における商品生産評価をめぐって	鈴木・西嶋編「中国史の時代区分」(東京大学出版会)		32—5
明末の董氏の変 ——奴変への展望——	東洋史研究	16—1	32—6

堀 敏 一

唐末の変革と農民層の分解	歴史評論	88	32—9
黄巢の叛乱 ——唐末変革期の一考察——	東洋文化研究所紀要	13	32—11

大 林 太 良

東北シベリア海岸文化の諸問題	東洋文化研究所紀要	11	31—11
極北民族の生活様式	「現代地理学講座」	6	31—11
Die Kulturhistorische Stellung des Ainu Hauses	Wiener Völkerkundliche Mitteilungen	4	31—6
アイヌ家屋の系統に関する一試論	民族学研究	21—4	32—12
Divination from entrails among the Ancient Inca and its Relation to Practice in Southeast Asia	Actas del XXXIII Congreso Internacional de Americanistas	1	34

佐 藤 達 夫

東北地方における館址の調査(予報)(共同執筆)	東洋文化研究所紀要	11	31—11
青森県上北郡早稲田貝塚(共同執筆)	考古学雑誌	43—2	32—12
青森県上北郡出土の早期縄文土器(共同執筆)	考古学雑誌	43—3	33—2
エミレエ・ポイントとヘルワン・リタッチ	古代文化	11	33—7
旧石器・中石器時代の文化(イラク・イラン)	「世界考古学大系」(平凡社)	10	34—1
長野県野辺山の石器	考古学雑誌	44—3	34—2
青森県上北郡唐貝地貝塚(共同執筆)	日本考古学年報	8	34—3

柳 田 節 子

宋代の客戶について	史学雑誌	68—4	34—4
-----------	------	------	------

重 田 徳

- 清初における湖南の地主制について
——「湖南省例成案」による小論—— 和田博士古稀記念
東洋史論叢 36—2

大 島 美 津 子

- * 日本史概説（共著） 東京大学教養学部
日本史研究室編
（東京大学出版会） 36—2
- 地方自治制の制定 明治維新史研究講座
（平凡社） 4 33—11
- 地方制度（法体系確立期） 日本近代法発達史
（勁草書房） 8 34—10
- 明治末期における地方行政の展開
——地方改良運動—— 東洋文化研究所紀要 19 34—12

加 賀 谷 寛

- **パニッカル「インドの歴史」（共訳） 東洋経済新報社 34—6
- 現代イランにおけるイスラーム近代主
義の展開 ——A・カスラヴィーの文化
革命思想を中心として—— 東洋文化研究所紀要 16 33—12
- パキスタン国家形成における
イスラーム思想の役割 東洋文化 29 35—3
- 西アジアにおけるナショナリズム
——アフガーニーの「パン・イスラミズム
を中心に—— 思 想 12 35—12

生 松 敬 三

- 福沢諭吉における洋学の展開 福 沢 研 究 8 32—3

宮 川 透

- 日本啓蒙思想の構造 思 想 31—10
- 日本における「フィロソフィア」の受容
——特に西周における「哲学」の概念
の成立過程の考察—— 東洋文化研究所紀要 11 31—11

C 東洋文化研究所紀要

第 12 冊 (昭和 32 年 3 月)

- 世界史と文化人類学……………石 田 英一郎
呪術的宗教……………小 口 偉 一
沖家室の漁業……………大 野 盛 雄
古典ヒンドゥー法の家産分割規定……………山 崎 利 男
英国社会人類学のゼミナールに出席して……………中 根 千 枝
東洋文化研究所要覧

第 13 冊 (昭和 32 年 11 月)

黄巢の叛乱

- 唐末変革期の一考察——……………堀 敬 一

唐の律令および格の新資料

- スタイン敦煌文献——……………仁井田 陸

- 日立鉦山部落の人間関係に関する文化心理学的調査報告……………築 島 謙 三

古典ヒンドゥー法の婦女の家産相続

- および Stridhana に関する規定 ……………山 崎 利 男

東京大学東洋文化研究所大木文庫分類目録 外編大木文庫私記

- とくに官箴・公牘と民衆とのかかわり——……………仁井田 陸

第 14 冊 (昭和 33 年 3 月)

- ナヤール母系大家族制の崩壊について……………中 根 千 枝

南米の農書とその性格

- 特に王禎「農書」の成立と関聯して——……………周 藤 吉 之

近代日本における西欧思想の受容過程の考察

- 問題史的回顧——……………宮 川 透

- 中国における近代地理学 (下) ……………小 堀 巖

第 15 冊 (昭和 33 年 3 月)

- スタイン敦煌発見の唐代奴隸解放文書……………仁井田 陞
地方体制と戸籍制度——山梨県の場合——……………福島 正夫
彙 報

第 16 冊 (昭和 33 年 12 月)

- ハトラ出土の遺物とバルティア美術……………深井 晋司
都心部における人口移動の実態
——東京都千代田区を事例として——……………花村 芳樹
現代イランにおけるイスラーム近代主義の展開
——A. カスラヴィーの文化革命思想を中心として——…加賀谷 寛
Some General Remarks on Attitudes in Asian Studies,
with special reference to Modern Japan……………Koji IZUKA

第 17 冊 (昭和 34 年 3 月)

- スタイン敦煌発見の唐宋家族法関係文書……………仁井田 陞
第一次五年計画下の中国農業増産工作……………橋本 秀一
庚申信仰年譜……………窪 徳忠

第 18 冊 (昭和 34 年 3 月)

- 明治六年の地方官会同と地租改正……………福島 正夫
北吉見村住民のパーソナリティー……………築島 謙三
五・六世紀ベンガルの土地売買文書についての若干の問題……………山崎 利夫
伊東市富戸における経済地理学的研究……………大野 盛雄

第 19 冊 (昭和 34 年 12 月)

- 新耒耜考……………関野 雄
明治末期における地方行政の展開
——地方改良運動——……………大島 美津子
西アジアにおける地下水灌漑の人文地理学的研究

——カナットを中心に——……………小堀 巖

東京大学東洋文化研究所大木文庫分類目録 補遺

彙報

New Approaches and Research Methods in

Chin-Shih-Hsüeh……………Noel BARNARD

第 20 冊 (昭和 35 年 3 月)

家庭電化機器の流通をめぐる若干の問題……………花村 芳 樹

藩鎮親衛軍の権力構造……………堀 敏 一

歴史的民族学の現状と課題……………大林 太 良

ビピン・チャンドラ・パールの政治思想について……………中村 平 治

新未耜考余論……………関 野 雄

第 21 冊 (昭和 35 年 3 月)

人民公社とコルホーズ……………福 島 正 夫

中国経済における成長とバランス……………本 橋 渥

人民公社史のふくむ問題

——『麦田人民公社史』と『城門人民公社史』——……………竹 内 実

中国における労働者の変革と労働の新組織

——発展する中国労働法のルポルタージュ——……………福 島 正 夫

第 22 冊 (昭和 36 年 1 月)

敦煌本太平経について……………吉 岡 義 豊

青果物の流通をめぐる諸問題

——神田青果市場を中心として——……………花村 芳 樹

漁業の地域構造に関する研究

——千葉県千倉の沖合漁業——……………大 野 盛 雄

夏目漱石の問題 (一)

——イギリス留学をめぐつて——……………生 松 敬 三

地上写真測量による建造物の測定

——デリーに現存する Shihāb al-Dīn Tāj Khan

の墓を例として——……………大 島 太 市

第 23 冊 (昭和 36 年 3 月)

吐魯番発見の唐代租田文書の二形態……………仁井田 陞

ハーンの日本文化観

——熊本滞在から「日本——一つの解明——」の完成まで——築 島 謙 三

フィリピンにおけるタロ芋栽培

——フィリピンに塊茎類栽培文化層は存在したか？——…大 林 太 良

第 24 冊 (昭和 36 年 3 月)

地租改正法の成立……………福 島 正 夫

大正デモクラシーの外交論的背景……………曾 村 保 信

西パキスタンにおける土地改革……………古 賀 正 則

D 研 究 会

昭 和 31 年

第 328 回 (9 月 14 日) フィリピン新財政の両面政策——債主税

従の健全財政案——……………橋 本 秀 一

第 329 回 (9 月 21 日) 東南アジアの土地改革……………川 野 重 任

第 330 回 (9 月 28 日) 村の体制と意識——とくに宗教意識に

ついて——……………高 木 宏 夫

第 331 回 (10 月 5 日) 明治前期における地方制度の考察……………大 島 美 津 子

第 332 回 (10 月 12 日) 明治維新政府の方式による近代化の遺産…飯 塚 浩 二

第 333 回 (10 月 23 日) 労働移動をめぐって——新潟県大和村調

査中間報告——……………花 村 芳 樹

第 334 回 (10 月 26 日) ラフカディオ・ハーンの日本文化観……………築 島 謙 三

- 第 335 回 (11月 9 日) ヒンドゥイズムと近代インド社会
 ……………スワミ・アーゲハナンダ
- 第 336 回 (11月20日) 日本の啓蒙思想について……………宮 川 透
- 第 337 回 (12月 7 日) 福沢諭吉における洋学の展開……………生 松 敬 三
- 第 338 回 (12月14日) 庶民的宗教の基本構造……………小 口 偉 一
- 昭 和 32 年
- 第 339 回 (1月18日) 原始的土地所有に関する二、三の問題……………石 川 栄 吉
- 第 340 回 (1月25日) ブラジル視察談……………大 野 盛 雄
- 第 341 回 (2月 1 日) ネパール、インド旅行の所感……………結 城 令 聞
- 第 342 回 (2月 8 日) 世界史と文化人類学……………石 田 英 一 郎
- 第 343 回 (2月15日) 古典ヒンドゥー法典研究の成果と課題
 ——主として第三期諸法典について——山 崎 利 男
- 第 344 回 (2月22日) インドの「社会改革」をめぐる諸問題……………荒 松 雄
- 第 345 回 (3月 8 日) インドの「社会主義」と農民……………坂 本 徳 松
- 第 346 回 (3月15日) 「近代」の性格……………山 本 達 郎
- 第 347 回 (3月22日) 宗教々団の成立——全真教の場合——……………窪 徳 忠
- 第 348 回 (4月19日) 太平洋戦争における日本の対中国平和工
 作について……………衛 藤 藩 吉
- 第 349 回 (4月26日) 中共の国際的地位……………植 田 捷 雄
- 第 350 回 (5月10日) 明末清初の大土地所有——とくに江南デ
 ルタ地帯を中心にして——……………小 山 正 明
- 第 351 回 (5月17日) 南宋稲作の地域性
 ——農鍛冶について——……………周 藤 吉 之
- 第 352 回 (5月31日) 「地丁併徴」の歴史的意義への一視角……………重 田 徳
- 第 353 回 (6月 7 日) イラク・イラン遺跡調査報告……………江 上 波 夫
- 第 354 回 (6月14日) <京都大学人文科学研究所との交換研究会>

- 第 355 回 (6 月 21 日) 訪中視察報告……………関 野 雄
- 第 356 回 (6 月 28 日) 近世封建社会成立史をめぐる
二、三の問題……………安良城 盛 昭
- 第 357 回 (7 月 5 日) 明末の官紳地主について……………佐 伯 有 一
- 第 358 回 (7 月 12 日) 黄巢の乱を中心として——中国における
封建制への道をめぐり——……………堀 敏 一
- 第 359 回 (9 月 13 日) ジョルダン・シリヤ・レバノンの旅……………新 規矩男
- 第 360 回 (9 月 20 日) 西アジア旧石器をたづねて……………佐 藤 達 夫
イーラーンにおける遺跡調査……………深 井 晋 司
- 第 361 回 (10 月 4 日) 中国古代帝国における支配の性格と社会
秩序の保持について……………西 嶋 定 生
- 第 362 回 (10 月 11 日) 中国旧社会の法と道德——国家権力と自
己とのかかりあい——……………仁 井 田 陸
- 第 363 回 (10 月 18 日) 清朝中期における保甲法の展開……………松 本 善 海
- 第 364 回 (10 月 25 日) 岩手県花巻市矢沢胡四王山館址の調査——
東北地方における館址の調査第三報——佐 藤 達 夫
- 第 365 回 (11 月 22 日) 海陸豊ソヴェト……………衛 藤 藩 吉
- 第 366 回 (12 月 6 日) 陝西米脂の馬姓堂号地主集団……………古 島 和 雄
- 第 367 回 (12 月 13 日) 革命文学……………小 野 忍
- 第 368 回 (12 月 20 日) 全国人民代表大会制度をめぐる諸問題……………福 島 正 夫
- 昭 和 33 年**
- 第 369 回 (1 月 17 日) 中共農業視察記
——特に集団農場につき——……………山 本 秀 夫
- 第 370 回 (1 月 24 日) インドネシア政治不安の経済的要因……………原 覚 天
- 第 371 回 (1 月 31 日) 中共農業増産計画とその効果……………橋 本 秀 一
- 第 372 回 (2 月 7 日) 欧米における中国研究の一瞥……………坂 野 正 高

- 第 373 回 (2 月 14 日) 東南アジア・後進国の経済開発……………飯 塚 浩 二
- 第 374 回 (2 月 21 日) 東南アジア経済開発の問題点……………川 野 重 任
- 第 375 回 (3 月 7 日) 教団組織の成立過程……………高 木 宏 夫
- 第 376 回 (4 月 18 日) 近代日本における西欧思想の受容過程……宮 川 透
- 第 377 回 (4 月 25 日) 「大逆事件」とそれをめぐる文学者たち
の反応……………生 松 敬 三
- 第 378 回 (5 月 2 日) イラン留学帰国報告……………加賀谷 寛
- 第 379 回 (5 月 9 日) 日本漁業の地域的性格……………大 野 盛 雄
- 第 380 回 (5 月 23 日) 明治末期における地方制度の展開
——地方改良運動を中心として——……大 島 美津子
- 第 381 回 (5 月 30 日) 近代インド政治思想の史的考察——
B. G. ティラク (1856~1920) の生涯
とその思想——……………中 村 平 次
- 第 382 回 (6 月 6 日) 都心部における人口移動の実態
——千代田区を中心に——……………花 村 芳 樹
- 第 383 回 (6 月 13 日) 調査方法の考察
——文化心理学の立場から——……………築 島 謙 三
- 第 384 回 (6 月^{27日}/_{28日}) <京都大学人文科学研究所との交換研究会>
- 第 385 回 (7 月 4 日) 中国の美人画……………米 沢 嘉 圃
- 第 386 回 (7 月 11 日) 長野県諏訪郡湖東村調査報告
——養蚕地帯の形成と地主制の展開,
農民層分解の動向と関連して——……………古 賀 正 則
- 第 387 回 (9 月 19 日) 満蒙・朝鮮における石器時代文化の編年…佐 藤 達 夫
- 第 388 回 (10 月 3 日) 帰朝報告 (オーストラリヤ・ニュージーラ
ンド出張) ………………飯 塚 浩 二

- 第 389 回 (10月10日) 倭人・倭王・毛人について……………江 上 波 夫
- 第 390 回 (10月23日) 現代イランにおける近代イスラームの発
展——カスラヴィ (1891~1946) の文
化革命思想を中心として……………加賀谷 寛
- 第 391 回 (10月31日) 古典ヒンドゥー法の訴訟法規定の展開——
古典ヒンドゥー法の性格について……………山 崎 利 男
- 第 392 回 (11月11日) ハトラ出土遺物とパルティア美術……………深 井 晋 司
- 第 393 回 (11月21日) 母系制カシ族の社会構造について……………中 根 千 枝
- 第 394 回 (11月28日) アンデス調査より帰つて……………石 田 英 一 郎
- 第 395 回 (12月 5 日) デリー地方に現存するサルタナットの遺
蹟について……………荒 松 雄
- 第 396 回 (12月12日) 初期イスラムの土地政策……………嶋 田 襄 平
- 第 397 回 (12月19日) 歴朝憲章類誌と黎朝の訴訟法……………山 本 達 郎
- 昭 和 34 年
- 第 398 回 (1月16日) 老子変化思想の展開……………吉 岡 義 豊
- 第 399 回 (1月23日) 米国農業雑感……………川 野 重 任
- 第 400 回 (1月30日) 神道庚申信仰……………窪 徳 忠
- 第 401 回 (2月 6 日) 法然と親鸞……………結 城 令 聞
- 第 402 回 (2月13日) ノーマン・ジェイコブス「近代資本主義
の起源と東アジア」(書評)……………坂 野 正 高
- 第 403 回 (2月20日) 1918年日中軍事協定と極東国際政治
——日本陸軍を中心とする政策過程の
一考察——……………関 寛 治
- 第 404 回 (2月27日) 金石学における新しい
アプローチと研究法……………ノエル・バーナード
- 第 405 回 (3月 6 日) 唐五代藩鎮の権力構造……………堀 敏 一

- 第406回(3月13日) 新耒耜考—先秦時代の耕具をめぐって—…関野雄
- 第407回(3月20日) 呉・南唐両王朝の国家権力の性格……………西川正二
- 第408回(3月27日) 印度よりの帰国談……………植田捷雄
- 第409回(4月17日) 吐魯番出土文書より見たる均田制の施行
状態——給田文書・退田文書を中心と
して……………西嶋定生
- 第410回(4月24日) 欧米民族学界の近況……………大林太良
- 第411回(5月8日) 敦煌寺院莊園関係文書
——スタイン文献——……………仁井田陞
- 第412回(5月15日) 吐魯番地方の個人文書……………周藤吉之
- 第413回(5月29日) 中国における封建制の体制的成立につい
て——賦役改革からみた明清時代にお
ける地主佃戸制の位置……………重田徳
- 第414回(6月5日) 譚嗣同の「仁学」について……………近藤邦康
- 第415回(6月12日) 印度の史蹟について……………高田修
- 第416回(6月19日) 辛亥革命前の政治思想
——「民報」その他について——……………野村浩一
- 第417回(6月26日) <京都大学人文科学研究所との交換研究会>
- 第418回(6月30日) Main Trends in the Nationalist
Movement of India……………ビシュエーシュワル・プラサド
- 第419回(7月3日) 官箴・公牘と致用の学——「泰泉郷礼」
を中心に——……………松本善海
- 第420回(7月10日) 越筆について……………米沢嘉圃
- 第421回(9月18日) 中国における人民公社の説明について
現代中国班研究会……………福島正夫
- 第422回(9月25日) 人民公社に関する諸問題

- 中国旅行と関連して——……………福 島 正 夫
- 第 423 回 (10月 2 日) 人民公社の組織の整頓について……………古 島 和 雄
- 第 424 回 (10月 9 日) 「麦田人民公社史」紹介……………竹 内 実
- 第 425 回 (10月16日) 中国における近代経済史講義について……佐 伯 有 一
- 第 426 回 (10月23日) 現代モンゴルの印象……………坂 本 是 忠
- 第 427 回 (10月30日) 農業合作化 (協同化) を描いた文学
——周立波「山郷巨変」——……………小 野 忍
- 第 428 回 (11月 6 日) 中国の社会主義経済建設の特殊性につい
て……………本 橋 渥
- 第 429 回 (11月13日) 「近代化」と組織論
——外国旅行の印象——……………衛 藤 藩 吉
- 第 430 回 (12月 4 日) 朝鮮台湾の米穀経済……………川 野 重 任
- 第 431 回 (12月11日) アジア研究といわゆる
一般理論の西欧的偏向……………飯 塚 浩 二
- 第 432 回 (12月18日) 石川県河北郡のゴム入細巾機業の発展過
程——日本農業の地域性把握に関連し
て——……………古 賀 正 則

昭 和 35 年

- 第 433 回 (1月 8 日) 明治期における地方官僚機構と地方議会…大 島 美津子
- 第 434 回 (1月19日) 中国を視察して
——現代中国班研究会——……………丸 川 辰 生
- 第 435 回 (1月22日) 家庭電化機器の流通をめぐる若干の問題
——千代田区御成り通り電機問屋街を
事例に——……………花 村 芳 樹
- 第 436 回 (1月29日) ソ連における中国文学の研究…ニコライ T. フェドレンコ

- 第 437 回 (2 月 5 日) 現代日本の自由主義について……………宮 川 透
- 第 438 回 (2 月 12 日) 絶対主義天皇制の宗教的性格……………高 木 宏 夫
- 第 439 回 (2 月 19 日) 夏目漱石について
——イギリス留学を中心に——……………生 松 敬 三
- 第 440 回 (2 月 26 日) ハーンの日本観
——熊本滞在以後について——……………築 島 謙 三
- 第 441 回 (3 月 4 日) 現代宗教におけるリーダーシップの問題…小 口 偉 一
- 第 442 回 (3 月 11 日) 帰国談……………大 野 盛 雄
- 第 443 回 (3 月 15 日) フィリッピン農業の動向と問題……………高 橋 彰
- 第 444 回 (3 月 18 日) 日本建国——十の謎……………江 上 波 夫
- 第 445 回 (4 月 15 日) 研究座談会……………C. N. バキール
- 第 446 回 (4 月 22 日) アイヌ文化の起源……………大 林 太 良
- 第 447 回 (5 月 6 日) 文明の起源と発展をめぐる諸問題……………石 田 英 一 郎
- 第 448 回 (5 月 13 日) インド史跡調査団現況報告……………山 本 達 郎
- 第 449 回 (5 月 27 日) アフリカの新独立諸国をまわつて……………岡 倉 古 志 郎
- 第 450 回 (6 月 3 日) 我が国における回転式鋸頭……………佐 藤 達 夫
- 第 451 回 (6 月 10 日) アラビア半島における石油企業の活動……川 崎 寅 雄
- 第 452 回 (6 月 17 日) エジプト近・現代史のためのプラン……………板 垣 雄 三
- 第 453 回 (6 月 24 日) <京都大学人文科学研究所との交換研究会>
- 第 454 回 (7 月 1 日) ナショナリズムとイスラミズムの関連に
ついて——パキスタン国家形成の思想
史的考察——……………加 賀 谷 寛
- 第 455 回 (7 月 8 日) 帰国談……………植 田 捷 雄
米 沢 嘉 圃
古 賀 正 則
- 第 456 回 (9 月 16 日) M. N. ロイの中国における使命に関する

- る資料……………ロバート・ノース
- 第 457 回 (9 月 30 日) 功過格思想の形成について……………吉岡 義豊
- 第 458 回 (10 月 7 日) 平安時代の社会と諸宗教
——浄土教成立を中心として——……………野田 幸三郎
- 第 459 回 (10 月 14 日) 庚申信仰の研究法について……………窪 徳忠
- 第 460 回 (10 月 21 日) イラン・オマーム附近古墳発掘の経過に
ついて……………江上 波夫
- 第 461 回 (10 月 28 日) 華嚴思想の形成とその展開……………鎌田 茂雄
- 第 462 回 (11 月 4 日) 東洋学会に出席して……………福島 正夫
- 第 463 回 (11 月 11 日) インド留学より帰りて……………中村 平次
- 第 464 回 (11 月 18 日) 1 年間海外出張報告……………荒松 雄
- 第 465 回 (11 月 25 日) 台北の外交檔案について……………坂野 正高
- 第 466 回 (12 月 9 日) 広東コムミューン……………衛藤 藩吉
- 第 467 回 (12 月 16 日) 「企業としての国家」
——近代日本の消長をめぐって——……………曾村 保信
- 第 468 回 (12 月 23 日) チベットをめぐる中印関係……………植田 捷雄
- 昭和 36 年
- 第 469 回 (1 月 13 日) 唐仏教の趨勢と変貌の理由……………結城 令聞
- 第 470 回 (1 月 20 日) 竜山文化の解明……………関野 雄
- 第 471 回 (1 月 27 日) 殷虚卜辞中の田獵地について——殷代国
家構造理解のための一考察——……………松丸 道雄
- 第 472 回 (2 月 3 日) 中国古代帝国の形成とその構造
——二十等爵制の研究——……………西嶋 定生
- 第 473 回 (2 月 10 日) 中央アジア考古学瞥見……………香山 陽坪
- 第 474 回 (2 月 17 日) 三長制の構成とその機能……………松本 善海
- 第 475 回 (2 月 24 日) インド・イラン・トルコ等旅行談……………飯塚 浩二

- 第476回(3月3日) 唐宋の变革と朱全忠政権……………堀 敏 一
- 第477回(3月10日) 中国土地所有制の構造と史的発展……………仁 井 田 隆
- 第478回(3月17日) 南宋州県の胥吏……………周 藤 吉 之
- 第479回(4月14日) 華北五代王朝の国家権力の性格——宋代
 国制史研究序説のための覚書その二——西 川 正 二
- 第480回(4月21日) 宋代土地所有における地域差の問題……………柳 田 節 子
- 第481回(4月28日) 武松と李逵——「水滸伝」の成立及び作
 者をめぐつて——……………木 山 英 雄
- 第482回(5月12日) 「新青年」について
 ——その思想史的考察——……………野 村 浩 一
- 第483回(5月16日) 帰国談……………橋 本 秀 一
 関 寛 治
 深 井 晋 司
- 第484回(5年23月) 辛亥革命と章太炎の思想
 ——改良派と革命派——……………近 藤 邦 康
- 第485回(6月2日) 帰国談……………関 寛 治
- 第486回(6月9日) <京都大学人文科学研究所との交換研究会>
- 第487回(6月16日) 復興期の市場統制政策……………古 島 和 雄
- 第488回(6月23日) 人民民主統一戦線と民族ブルジョアジー…福 島 正 夫
- 第489回(6月30日) 中国社会主義建設における農業重視をめ
 ぐつて……………本 橋 渥
- 第490回(7月7日) 日本における宋元絵画……………米 沢 嘉 圃
- 第491回(9月15日) 帰国談……………飯 塚 浩 二
 江 上 波 夫
 石 田 英 一 郎
 中 根 千 枝

山崎利男

- 第492回(9月22日) 中国産業の諸問題
——南洋兄弟烟草公司をめぐるつて——…佐伯有一
- 第493回(9月29日) 「人民の自己認識」
——義和団民話について——……………竹内実

京都大学人文科学研究所との交換研究会

- 昭和25年4月7, 8日 中国における農耕上の協同について……清水盛光
10月24, 25日 日本の軍隊……………飯塚浩二
- 昭和26年5月14, 15日 竜門石窟の研究……………長広敏雄
11月14, 15日 白画の成立……………米沢嘉圃
- 昭和27年6月5, 6日 中国古代農業技術の諸問題……………天野元之助
10月21, 22日 人類社会における農耕民型……………江上波夫
- 昭和28年7月3, 4日 18世紀フランスと百科全書……………桑原武夫
10月29, 30日 移住の社会人類学的研究
——米洲における日本人——……………泉靖一
- 昭和29年6月15, 16日 日本労働組合運動の一断面……………渡辺徹
10月27, 28日 戦後宗教の形成とその構造……………小口偉一
- 昭和30年6月 10日 西ウイグルに関する諸問題……………安部健夫
11月17, 18日 南宋の郷村制と農業問題……………周藤吉之
- 昭和31年6月22, 23日 私の学問の話……………今西錦司
12月5, 6日 先秦時代の地方都市……………関野雄
- 昭和32年6月14, 15日 居庸関過街塔——雲台の浮彫と六体刻
文について——……………藤枝晃

昭和32年11月20, 21日	道教の日本伝来——とくに庚申信仰について——	窪	徳	忠
昭和33年6月27, 28日	維新史の問題点	坂	田	吉雄
12月3, 4日	親鸞の宗教形成の過程と今の親鸞解釈	結	城	令聞
昭和34年6月26日	廬山慧遠教団について	塚	本	善隆
11月20日	中国刑法史の基本問題	仁	井	田陞
昭和35年6月24日	康有為と章炳麟	小野川		秀美
12月8日	沖縄の法的地位	植	田	捷雄
昭和36年6月9日	居延漢簡について	森		鹿三

Ⅶ 調査研究事業

A イラク・イラン遺跡調査研究

イラク・イラン遺跡調査団は昭和31年9月から翌年7月にわたる第1次調査に始まり、続いて昭和34年の第2次、35年の第3次と前後3回にわたって海外調査をおこなってきた。

第1次の調査においては「文明の起源とその初期の発展の様相」という問題解明に寄与する目的にもとづいて人類が最初に狩獵採集経済から農耕牧畜の生産経済に移行し文明への第一歩を踏み出した地であるオリエントのいわゆる豊穡な三日月地帯の一角において原始農村遺跡を発掘することが中心の事業であつた。また我国最初の西アジア方面への学術調査事業として広く西アジア各地の遺跡を探訪し、アジアおよびヨーロッパ文明の母胎となつたオリエントの古代および中世文明の研究に役立つような資料をあたうる限り蒐集することを第二の目的とした。

第一の目的である原始農村址の発掘は時のイラク政府考古局総裁ナジ・アル・アシール博士の招請により北部イラクのテル・サラサートにおいておこなわれた。これはモースル市の西方約60軒にある4個のテルからなる遺跡で、このうちの第2号丘と名付けたテルを31年10月から12月までと、翌32年3月4月との春秋2期にわけて発掘した。2号丘を最初の発掘地点に選んだのは、表面採集の結果はほとんど後世の遺物の散布がなく単純な原始農村址と推定され、また4個のテルのうち最も小規模であるため、比較的短時間で調査を完了し得ると考えられたからである。2号丘は高さ約8メートル、長軸約100メートル、短軸約60メートルの不整楕円形の丘であるが、最初に短軸に沿って丘のほぼ中央に巾5メートル、長さ60メートルのトレンチとそれに丁字形に交わる40メートルのトレンチを設定し、現れた遺構に従って拡張して行つた。遺跡の主体はウルク期（紀元前3,000年～3,500年頃）およびウバイド期（紀元前3,500年～4,000年頃）の集落址からなり、日乾煉瓦で構築された建築址が幾層にも重なつて発見された。建築址としてはパン焼かまどや円形プランの穀倉と推定される遺構を伴う住居址の外に、神殿址と推定される頑丈な作りの独立した建築址（ウルク期）や集落の周囲にめぐらされたバトレス（扶壁）を有する部厚い煉瓦壁も発見された。また多様な土器、石刃、石斧、石皿、石製の扉の軸受け、土製の紡錘車、投弾、動物土偶、粘土、貝、骨等で作つた装身具、アンペラ状の敷物、炭化麦、羊、牛、鹿、猪等の獣骨等豊富な遺物が発見された。住居址に伴つて埋葬人骨および甕棺に埋葬された幼児人骨等があり、また一部にアッシリヤ時代初期頃の墓地が営まれていて青銅製の鉞、腕輪、ヘアピン等を伴う人骨も発見され、採集された骨は合計50体に達した。第2号丘はほぼその³/₄を完掘したが、なおウバイド期以前の層が残されている。また他のテルの試掘の結果、1号丘と3号丘は紀元前4,000年頃から1,000年頃に至る長期間にわたつて形成された遺跡であり、第4号丘は4個のテルのうちで最古の農村址と推定される。従つてこれらを継続的に調査することによつて極めて初期の原始農村から町邑へ都市へと発展しさらに国家の形成に至る過程が一地域で連続的・段階的に解明出来ると期待されるのである。

第2の目的とする西アジア各地の一般調査は北イラクの発掘に先立つ1カ月間と雨季で発掘が中断される冬季を利用し、また一部は発掘と平行して行われ、その間イラン・イラク・シリア・ヨルダン・レバノンの諸国を訪れ、延約10万料を走破し、旧石器時代から中世までの各時代の遺跡を探訪し、多数の写真、拓本、各種の遺物、標本など学術上貴重な資料を数多く将来することが出来た。また31年秋にはイランの一般調査と平行して西南イランのマルブ・ダシュトの原始農村址タル・イ・バリソで小発掘を行つた。テル・サラサートの発掘の成果は昭和34年に「テル・サラサート」として出版、一般調査の概要は33年に「オリエント」として出版された。

第2次調査 昭和34年には再度テル・サラサートの発掘を行う予定であつたが、イラクの国内情勢がそれを許さぬこととなり、急に予定を変更してイラン西南部の盆地マルブ・ダシュトにおいてテル・サラサートの原始農村址とほぼ年代的に平行する遺跡を発掘することとなつた。第2次の発掘は34年の4月から6月までの約3カ月間、タペ・ジャリA、タペ・ジャリB、タペ・ギャブの3つのテルに対して併行して行われた。これらの遺跡は大体紀元前3,000年頃から紀元前4,000年頃に属すると推定されるが、そのうちでタペ・ギャブは最も新しい。タペ・ギャブからは幾何学文、羚羊や鳥を図様化したもの等を描いた美しい精製土器が多数発見された。ここには少くとも10以上の住居址の重なりが認められるがその第4層から初現的な神殿址と推定される建築址が発見されたことは注目すべきである。タペ・ジャリA、Bは隣接するテルでともに数層に重なる泥壁の住居址が発見され、大量の土器、石刃、骨針等が採集された。タペ・ジャリAの上層は無文の粗製土器が主体をなし貝製、骨製の装身具、獣骨が多いのが特色でその時期はタペ・ジャリBより新しいと見られる。タペ・ジャリBでは小さな中庭を中心にした方形の部屋からなる住居の構造が明らかにされ、また部屋の一隅に大形の甕が置かれる場合が多く、竈とそれに伴つて、灰を蓄えた造りつけの容器等も発見された。土器は胎土にスサを含み、精巧な幾何学文様を描く彩文土器が主体である。それに僅かに細石器が伴出することは中石器時代とのつながりをうかがわせるもので興味を惹いた。タペ・ジャリA

の下層は、タペ・ジャリ B のものよりやや古いと思われる彩文土器を伴い赤色塗彩の壁が発見されている。またタペ・ジャリにほど近い小丘タペ・ムシュキを試掘してタペ・ジャリ A 下層の土器に先行する型式の彩文土器と細石器を採集し、これがイランで非常に古い段階の原始農村址であることが確認された。

第2次調査の期間には原始農村址の発掘と平行してペルセポリスの宮殿址や、南イランのササン朝時代の浮彫などの調査を行い、さらにフアリアンにおいてアケメネス時代の宮殿址と推定される遺跡を試掘しペルセポリスと同様な浮彫装飾のある礎石列の存在を確認するなど美術史、建築史の部門でも成果を挙げた。

またテヘラン滞在中にたまたま北イラン・ギラン州において住民によつて新たに発見された古墳群から陸続としてもたらされた遺物の中に中国の黒陶・灰陶に酷似した先史時代土器、隋唐時代、我国の古墳時代、奈良時代のガラス器、銀器、珠類等に類するササン朝時代の遺物等が少なからず含まれていることに注目し、団員の一部はその出土遺跡をもとめてアルボルス山中のデーラマニスタンに赴きドルメン、石棺墓、地下式横穴墓等種々の形式の古墳群を踏査した。

第3次調査 第2次調査に際して踏査したデーラマニスタンの古墳群はその後大規模な盗掘が続き、東西交渉史上ゆるがせに出来ない重要な遺跡が日ならずして煙滅する恐れがあり、イラン当局からも調査団の緊急な派遣を懇請するところがあつたので、昭和35年7月から9月まで約3カ月にわたつてデーラマニスタンの首邑デーラマンの周辺で4カ所の古墳群の発掘が実施されたのである。デーラマニスタンはプル河の溪谷に沿う高原地帯で谷沿いの台地上に数多くの古墳群が分布している。今回調査した古墳群はガレクテイ、ラスルカン、ホラムルード、ノールズマハレの4カ所で、ガレクテイは青銅器時代末期～初期鉄器時代に属する石棺墓、石蓋土壙墓、土壙墓からなる古墳群で、ラスルカンはこれとほぼ同時期のストーンサークルを主体とする古墳群である。ノールズマハレおよびホラムルードはパルティヤ時代と推定される地下式横穴と土壙墓からなる古墳群である。これを通じて合計55基の古墳を調査し約50体の埋葬人骨を得、さらに古墳群と重複して発見された先史

時代とパルティア時代の集落址の一部を各1カ所調査した。ガレクテイ遺跡では黄金製装身具を装着した人骨を埋葬した方形の大土壙を囲んで小形石棺墓が整然と分布しており、また中形の一石蓋土壙墓では14体におよぶ殉葬人骨が伴い、石蓋上の殉葬者は剣か鉞、鏃等の武器を携行し、壙内の殉葬者は、冠、腕輪、鏡、容器等墓主の生活用具を奉持した状態で発見されるなど、初期王朝の形成期における権力者の実態を如実に示す事例が認められた。ノールズマハレではローマングラス、金製耳飾、青銅製耳搔、サハリに類する銅容器等東西交渉の一端を示す遺物を得るとともに、土器、鉄器の完好な資料を数多く発見し従来あまり知られていなかったパルティア文化に重要な知見を加えることができた。

B 中世インド・イスラーム建造物の調査研究

従来インド・パーキスターンの古代の遺蹟、とくに仏教関係の建築・美術に関しては、諸外国においてすぐれた調査研究が公けにされ、日本の学界でも研究がおこなわれているが、いわゆる「中世」のインド＝イスラーム諸遺蹟については、わが国で研究がおこなわれていないばかりでなく、インドおよび欧米の学界においても、十分な調査がおこなわれておらず、簡単な概論的紹介書あるいはきわめて断片的な報告書がわずかに刊行発表されているにすぎない。そこで、東京大学に、東洋文化研究所を中心として、昭和34年、「東京大学インド史蹟調査団」が組織され、同年10月末より約5カ月間、現地調査が実施された。調査団は、教授山本達郎（団長）、助教授荒松雄、研究員三枝朝四郎、研究員大島太市（生産技術研究所助手）、研究員月輪時房の5名で構成された。なお、本調査事業は、国費（校費）、科学研究費の他に、事業団体よりの援助寄金によつておこなわれたものである。

北インドの大部分は、13世紀初頭からイスラーム教を信奉するトルコ・アフガン系諸民族の政治的支配の下に置かれ、文化の面では、従来のヒンドゥー文化の上に、イスラーム文化の影響が強く現われるようになり、両文化の接触・交流・融合・対立が種々の形態をとつて現在にまで及んでいる。本調査の対象は、モスク（イ

スラーム教礼拝所)・墓(スルターン・貴族・聖者などのもの)・城砦・宮殿・住居・学校・神殿(ヒンドゥー教)・井戸・水門・橋梁など各種にわたり、その遺蹟は北インドに広く分布し、一部は中央インド・南インドにも及び、特にいわゆる「デリー諸王朝」の中心拠点であつたデリーの周辺に集中的に残存している。

現地調査団は、インド政府科学文化省、考古局の許可と援助とにより、インドの諸学者の協力のもとに、現地調査を実施したが、特別に装備した箱型ジープ1台を用いて、デリー周辺地区を中心に、次のような地域を調査の対象とした。(以下の地名はインドで普通に用いられている慣用に従う)

(1) 主要調査地域：Delhi および Delhi 周辺地域

(2) 地方調査：Aligarh, Lucknow, Allahabad, Varanasi, Jaunpur, Sasaram, Gaur, Panduah, Agra, Fatehpur Sikri, Gwalior, Dhar, Mandu, Aurangabad, Daulatabad, Khurdabad, Hyderabad, Golkonda, Bidar, Gulbarga, Bijapur, Ahmadnagar, Ahmadbad, Ajmer.

(3) 関連調査地域：Sarnath, Nalanda, Rajgir, Buddha Gaya, Mathura, Elephanta, Ajanta, Ellora, Nagarjnikonda, Poona.

調査団の調査研究事項の大要は次の通りであつた。

(1) 遺蹟の地域的分布・現存状況を総括的に調査し、年代・地域・種類による分類整理を行つて、歴史学・建築史学・美術史学・考古学等の研究の基礎資料を整備する。(2) 調査可能な重要遺蹟(特にデリー周辺)を選定し、詳細な測量・記述を行い、諸遺蹟の構造・様式・文様などの比較対照によつて歴史的変遷の過程を辿り、また年代の確実な遺蹟を基準として他の遺蹟の時代比定を試みる。(3) ヒンドゥー文化とイスラーム文化との接触・変容・融合の過程を分析し、美意識・宗教意識の変遷を辿り、インド=イスラーム様式の特色を解明する。(4) インドにおけるこれらの遺蹟と、他の諸地域とくに西アジア諸遺蹟とを、可能な範囲に於て比較研究し、文化交流・文化変容の問題を考察する。(5) 遺蹟の性格と分布を総体的に検討して、当時の政治的支配の構造、社会的、経済的状况を分析する資料を抽出し、様式上の変

遷と歴史の変動とを一括して考察する。(6) 遺蹟調査と並んで関連資料、とくにペルシア語・ウルドゥー語・サンスクリット・英語などの文献を蒐集または複写する。

本調査団の活動を、その当初より辿つてみると、ほぼ次の通りである。調査計画立案に先立つ予備調査としては、山本教授が昭和27年12月デリー周辺の諸遺蹟を視察し、次いで荒助教授が昭和29～31年にわたるニューデリー滞在中に、諸遺蹟の全般にわたつて観察、写真撮影を行い、またインド各地の関係諸遺蹟の代表的なものを視察した。これらの資料を中心として両人が共同に検討を進めた結果、東京大学に於てインド史蹟調査団を組織することとなり、山本教授を団長とする前記荒・三枝・大島・月輪の5名をインドに派遣し、昭和34年10月末から約5カ月にわたつて各地方のインド＝イスラーム建築を主眼とする調査を実施したものである。調査に当つては、デリー王朝時代のモスク・墓・城砦・宮殿・住居・学校と並んで、とくに水の利用に関する諸施設（井戸・水門・溝渠・橋梁・揚水・排水の機構など）をとりあげ、また建築装飾に注目した。インドの現地調査終了後、山本教授及び荒助教授は西アジア諸国・ソ連邦・欧米各国を訪問する機会を得て、各国の関連学会・博物館・文書館・図書館などを訪ね、関係学者と意見を交換し、また資料の蒐集複写に努めた。西アジア・中央アジアに於ては、本調査の内容と関連する遺蹟・建築物の観察撮影を可能な範囲でおこなつてきた。

調査の結果持ちかえつた諸資料は、組織的な研究計画にもとづき、長期保存にたえるような形で、東洋文化研究所に、またその一部は生産技術研究所に保管しており、現在、調査団員を中心に、必要に応じて各方面の専門家の協力を得て、整理研究を進めている。研究員嶋田襄平（中央大学助教授）はアラビア語、研究員黒柳恒男（東京外大助教授）はペルシア語についての碑文・文献の研究を補助している。また昭和38年度にはじまる予定の報告書刊行準備のため、斉藤菊太郎を研究員に委嘱し、調査の整理と報告資料の編集に努めてきた。特に本調査団が採用した地上立体写真による測量・図化の方法は、この種の調査の方法としては、はじめての試みであつたが、本年3月生産技術研究所にウィルド社製1級図化機A7装置が設けら

れ、同研究所の丸安研究室に於て作図が進行しており、その成果が次第に明らかにされてきている。

整理研究の対象となる資料は、色彩及び単色各種写真資料（4×5、6×9、6×6、35mm等）、測量各種資料、拓本、などが主なるものであり、このうち、測量資料については、前述の写真測量方式のものもふくめて、図化が相当程度進行している。拓本資料は、歴史碑文、文様が主であるが、これらは、各種写真資料とともに、整理、番号づけが終り、一括して、索引カードにまとめられている。本調査の研究において必要なる文献の中で主要なものは、カード・システムによつて整理された。インド、イギリスで複写されたペルシア古写本のマイクロフィルムの引伸しもほぼ完了している。

第1次調査に於ては、各地の豊富な遺蹟を取扱い、デリー周辺の遺蹟についても調査時間が不足しており、残された研究分野が頗る多く、未調査の関係遺蹟も少くないので、ここに前回の調査の補足完結を主眼として第2次の調査をおこなうことになった。第2次現地調査には、団長山本教授以下第1次調査団員5名の他、齊藤研究員が短期間参加する予定である。第1次調査に於ては、パーキスターンに現存する少数の関連遺蹟を調査する余裕がなかつたが、今回は短期間ながらこれを日程に入れてある。現地調査はこの第2次をもつて完了する計画で、2回にわたる調査の結果は、これを組織的に整理研究して、歴史学・建築史学・考古学・宗教史学等の各種専門領域にわたる検討を行い、その報告書は、昭和38年度に第1冊を刊行する予定である。

VIII 研究課題

昭和 31, 32 年度

(* 印は班の主任)

共同研究

I 周辺アジアの民族と文化

- 1 北アジアにおける集落址の研究……………江上波夫
- 2 太平洋をめぐる文化潮流の研究……………大林太良
- 3 北海道先史文化の編年的研究……………佐藤達夫
- 4 ウマの飼育を中心としたユーラシア大陸の文化交流…………… * 石田英一郎

II 南アジアにおける社会と文化の変遷

- 1 インドシナにおける国家権力の構造と村落…………… * 山本達郎
- 2 インドおよびその辺境の母系制社会……………中根千枝
- 3 古典ヒンドゥー法の研究……………山崎利男
- 4 インドにおける支配権力の変貌 ——12世紀以前——……………山崎利男
——13世紀以後——……………荒松雄
- 5 19世紀後半以後の民族運動と社会改革……………荒松雄
- 6 ササン朝ペルシャの美術の特質……………深井晋司
- 7 19世紀以降の「近代イスラーム」運動……………加賀谷寛

III 中国における固有思想と外来思想の交渉

- 1 中国的仏教の形成…………… * 結城令聞
- 2 道教の仏教思想受容……………窪徳忠

IV 中国をめぐる近代国際関係の展開

- 1 中国の国際的地位の変動 ——第1次大戦後を中心として— …… * 植田捷雄
- 2 外圧と中国の政治構造 ——総理衙門の機能を中心とする——……坂野正高

3	英国対華政策の政治過程	衛藤 藩 吉
V 中国における政治機構と土地所有		
1	先秦諸国の国家機能	関野 雄
2	均田制成立以前に於ける土地制度	西嶋 定生
3	唐末五代の政治過程	堀 敏一
4	宋代の農村機構	周藤 吉之
5	中国の奴隸制と農奴制	* 仁井田 陞
6	明代における地主的土地所有と村落体制の変遷	佐伯 有一
7	明末清初の賦役改革と地主制 ——とくに「地丁併 徴」を中心として——	重田 徳
VI 現代中国の研究		
1	革命発展の諸段階と政治建設	松本 善海
2	抗日民族統一戦線	衛藤 藩 吉
3	現代中国法の諸問題	* 福島 正夫
4	婚姻法の発展	仁井田 陞
5	1920年代の労働運動	佐伯 有一
6	農業における社会主義改造	古島 和雄
7	経済建設による地域社会の変貌	小堀 巖
8	文学におけるリアリズムの系譜	小野 忍
VII アジア的経済秩序と発展の構造		
1	東南アジア米穀経済の構造変動	* 川野 重任
2	後進国の経済開発	橋本 秀一
VIII 近代日本の社会と思想		
1	日本産業構造の特色	* 飯塚 浩二
2	労働移動をめぐる都市と農村 ——中小商工業人口の給源——	花村 芳樹
3	日本の漁業 ——その経済地理学的研究——	飯塚 浩二

大野盛雄

- 4 明治地方制度の研究……………大島美津子
- 5 近代日本における西欧思想の移植史……………宮川透
- 6 近代日本文学の思想史的研究……………生松敬三
- 7 庶民宗教における神の観念……………小口偉一
- 8 近代日本における教団の成立
——イデオロギーと組織を中心とする——……………高木宏夫
- 9 外国人の日本観……………築島謙三

個別研究

- 1 文化の心理学基礎論……………築島謙三
- 2 北宋文人画の研究……………*米沢嘉圃
- 3 中国地理学史の研究……………小堀巖
- 4 法然と親鸞との思想的つながり……………結城令聞
- 5 道教の日本への伝播……………窪徳忠
- 6 日本農業の地域構成……………花村芳樹
- 7 中国旧社会の権威主義と刑法……………仁井田陸
- 8 「魏書食貨志」訳註……………松本善海
- 9 シヤマニズムの研究……………小口偉一

昭和 33, 34 年度

共同研究

(*印は班の主任)

I ユーラシアの民族と文化

- 1 文明起源の比較研究……………石田英一郎
- 2 西アジアにおける集落址の研究……………*江上波夫
- 3 北海道先史文化の編年的研究……………佐藤達夫

II 南アジアにおける社会と文化の変遷

- 1 インドシナにおける国家権力の構造と村落……………*山本達郎
- 2 インドにおける母系制社会……………中根千枝
- 3 古典ヒンドゥー法の研究……………山崎利男
- 4 インドにおける支配構造と社会関係(12世紀以前)……………山崎利男
- 5 インドにおける支配構造と社会関係(13世紀以後)……………荒松雄
- 6 近代インドにおける政治思想の特質……………中村平次
- 7 パルティア王朝時代の美術の特質……………深井晋司
- 8 イランにおける近代イスラーム思想の展開……………加賀谷寛

III 中国における固有思想と外来思想との交渉

——南北朝末期より初唐に至る——

- 1 中国的仏教の形成……………*結城令聞
- 2 道教の仏教思想受容……………窪徳忠
- 3 道教と密教思想との交渉……………吉岡義豊

IV 中国の近代国際関係の展開 ——特に日華関係を中心として——

- 1 中国の国権回復運動……………*植田捷雄
- 2 日本の対華政策の推移 ——特に満蒙政策の基礎——……………曾村保信
- 3 満蒙をめぐる日中ソ関係……………関寛治
- 4 抗日民族統一戦線の成立……………衛藤藩吉
- 5 中国外政機関 ——機構とその運用——……………坂野正高

V 中国における政治機構と土地所有の史的研究

- 1 先秦諸国の国家機構……………関野雄
- 2 中国古代専制国家の構造とその基盤……………西嶋定生
- 3 唐代の奴隷解放文書その他 ——スタイン敦煌文献——……………*仁井田陞
- 4 唐代五代の政治過程と政治構造……………堀敏一
- 5 五代および宋代の国制……………西川正二

6	宋代の農村機構	周藤吉之
7	明代における地主的土地所有と村落体制の変遷	佐伯有一
8	清代の経済構造と地主制	重田徳
9	清末の政治思想	野村浩一
VI 現代中国の研究		
1	現代中国法の諸問題	*福島正夫
2	現行中国刑事法の特色	仁井田陞
3	李立三コースの清算と留蘇グループの抬頭	衛藤藩吉
4	人民共和国の歴史過程	
	——人民民主主義政治制度樹立の問題として——	松本善海
	——社会主義経済制度樹立の問題として——	古島和雄
5	復興期の資本主義経済に対する制限政策	本橋渥
6	20世紀以後における農村市場の構造	佐伯有一
7	現代中国文学の諸問題	小野忍
8	近代日本文学における中国像	竹内実
9	国画の問題	米沢嘉圃
VII アジア経済秩序と発展の構造		
1	東南アジア米穀経済の構造変動	*川野重任
2	経済開発のアジア的特性	橋本秀一
3	東南アジア経済発展と貿易構造	原覚天
VIII 近代日本の社会		
1	労働移動をめぐる都市と農村	飯塚浩二 花村芳樹
2	漁業の経済地理学的研究	大野盛雄 飯塚浩二
3	日本の農業地理 ——農業地域の形成について——	古賀正則

4 明治地方制度の研究……………大 島 美津子

IX 近代日本の思想と宗教

1 近代諸国民のブルジョア革命思想の比較研究

——その一環としての日本啓蒙思想の研究—— ……宮 川 透

2 近代日本の文学と思想……………生 松 敬 三

3 現代宗教における終末観の展開……………*小 口 偉 一

4 近代日本における教団の成立

——イデオロギーと組織を中心とする……………高 木 宏 夫

5 外国人の日本観……………築 島 謙 三

個 別 研 究

1 文化の心理学基礎論……………築 島 謙 三

2 シャマニズムの研究……………小 口 偉 一

3 中国山水画の研究……………米 沢 嘉 圃

4 「晋書食貨志」訳註……………西 嶋 定 生

5 「魏書食貨法」訳註……………松 本 善 海

6 道教の日本への伝播 ——庚申信仰を中心として—— ……窪 徳 忠

7 法然と親鸞との思想的つながり……………結 城 令 聞

昭和 35, 36 年度

共 同 研 究

(* 印は班の主任)

I ユーラシアの民族と文化

1 文明起源の比較研究……………石 田 英 一 郎

2 西アジアにおける集落址の研究……………*江 上 波 夫

3 西アジア文化の編年的研究……………佐 藤 達 夫

4 アイヌ文化の起源……………大 林 太 良

II 南アジアにおける社会と文化の変遷

- 1 インドシナにおける国家権力の構造と村落……………*山本達郎
- 2 インドにおける母系制社会……………中根千枝
- 3 古典ヒンドゥー法の研究……………山崎利男
- 4 インドにおける支配構造と社会関係(12世紀以前)……………山崎利男
- 5 インドにおける支配構造と社会関係(13世紀以後)……………荒松雄
- 6 近代インドにおける政党政治の史的考察……………中村平次
- 7 パルティア王朝時代の美術の特質……………深井晋司
- 8 インドネシアにおける文化諸潮流……………大林太良
- 9 インドにおける農地改革……………古賀正則

III 近代西アジア研究

- 1 イブン・ハルドゥーンの世界史……………*飯塚浩二
- 2 アラブ・ナショナリズムの史的展開……………板垣雄三
- 3 西アジアにおける近代思想運動……………加賀谷寛
- 4 バハイズムの展開過程……………小口偉一

IV 中国における固有思想と外来思想との交渉

- 1 隋唐における中国的仏教の形成……………*結城令聞
- 2 道教の仏教思想受容……………窪徳忠
- 3 道教と密教思想との交渉……………吉岡義豊
- 4 唐中期以後における仏教思想の変容過程……………鎌田茂雄
- 5 陰陽五行思想の研究……………野田幸三郎
- 6 老荘思想と仏教……………塩入良道
- 7 唐宋絵画研究……………米沢嘉圃

V 近代中国の国際関係

- 1 中印国境問題……………*植田捷雄
- 2 日本の満蒙政策……………曾村保信

- 3 幣原外交……………衛 藤 藩 吉
 4 中国の外政機構 ——機構とその運用—— ……坂 野 正 高
 5 タイをめぐる中米関係……………関 寛 治

VI 中国における政治機構と土地所有の史的研究

- 1 出土文字史料を主として見た殷代の国家構造……………松 丸 道 雄
 2 先秦諸国の国家機構……………関 野 雄
 3 中国古代専制国家の構造とその基盤……………西 嶋 定 生
 4 中国雇傭法の歴史的研究 ——スタイン敦煌文献その他——… * 仁井田 陸
 5 均田制と政治体制……………堀 敏 一
 6 五代および宋代の国制……………西 川 正 二
 7 宋代の農村機構……………周 藤 吉 之
 8 宋代の税役制度……………柳 田 節 子
 9 明代における地主的土地所有と村落体制の変遷……………佐 伯 有 一
 10 官箴公牘と経世致用の学……………松 本 善 海
 11 中国文学における近世の可能性……………木 山 英 雄
 12 近代中国思想……………近 藤 邦 康
 13 辛亥革命 ——その政治思想的考察—— ……野 村 浩 一

VII 現代中国の研究

- 1 人民公社の法的諸問題…………… * 福 島 正 夫
 2 現行中国刑事法の特色……………仁井田 陸
 3 李立三コースと留蘇グループの抬頭……………衛 藤 藩 吉
 4 人民共和国成立の歴史過程
 ——社会主義経済制度樹立の問題として—— ……古 島 和 雄
 5 経済成長と人民公社……………本 橋 渥
 6 20世紀以後における農村市場の構造……………佐 伯 有 一
 7 現代中国文学の諸問題……………小 野 忍

8	近代日本文学における中国像, 人民公社についてのルポル タージュ	竹内実
9	現代中国文学思潮	尾上兼英
10	中国現代教育史	新島淳良
11	国画の問題	米沢嘉圃
VIII アジア経済秩序と発展の構造		
1	東南アジア米穀経済の構造変動	*川野重任
2	経済開発のアジア的特性	橋本秀一
3	東南アジア経済発展と貿易構造	原覚天
IX 近代日本の社会		
1	東北振興問題の構造分析 ——イタリアの南部問題との対比について——	花村芳樹
2	漁業の経済地理学的研究	*飯塚浩二 大野盛雄
3	日本の農業地理 ——農業地域の形成について——	古賀正則
4	大正期の地方政治	大島美津子
X 近代日本の思想と宗教		
1	西欧思想の移植史	宮川透
2	近代日本の文学と思想	生松敬三
3	現代宗教における終末観の展開	*小口偉一
4	近代日本における教団の成立	高木宏夫
5	民衆的宗教における反権力思想と平和主義運動	村上重良
6	外国人の日本観	築島謙三
個別研究		
1	文化の心理学基礎論	築島謙三

- 2 シャマニズムの研究……………小 口 偉 一
 3 宋代美術資料の調査……………米 沢 嘉 圃
 4 「晋書食貨志」訳註……………西 嶋 定 生
 5 「魏書食貨志」訳註……………松 本 善 海
 6 道教の日本への伝播 ——庚申信仰を中心として—— ……窪 徳 忠
 7 鎌倉時代の仏教と親鸞……………結 城 令 聞

文部省科学研究費による研究

1. 総 合 研 究

昭 和 31 年 度

農業経済の特殊性に関する理論的実証的研究……………川 野 重 任

中国農村慣行の法社会学的研究……………福 島 正 夫

昭 和 32 年 度

中国農村慣行の法社会学的研究……………福 島 正 夫

現代中国蒙古および朝鮮の法律政治に関する総合研究……………仁井田 陸

昭 和 33 年 度

戦後アジアにおける社会構造の変動とその過程……………飯 塚 浩 二

変革期中国の村落と家族……………仁井田 陸

昭 和 34 年 度

アジアにおける社会構造と変動……………飯 塚 浩 二

日唐法制経済文書の比較研究……………仁井田 陸

昭 和 35 年 度

アジアにおける社会構造と変動……………飯 塚 浩 二

2. 機 関 研 究

昭 和 34 年 度

日本社会の近代化に関する研究——特に土地制度を中心として——

(社会科学研究所・法学部・経済学部と共同)

昭和36年度

アジア社会の近代化と文化の変動(社会科学研究所, 文学部と共同)

3. 各 個 研 究

昭和31年度

中国仏家人名辞典の補充及び補修……………結 城 令 聞

韓国合併の研究(明治43年)……………植 田 捷 雄

昭和32年度

中国仏家人名辞書原稿補正……………結 城 令 聞

昭和33年度

近代日本における地方制度の形成と展開……………大 島 美津子

昭和35年度

近代日本宗教社会史の研究……………小 口 偉 一

道蔵の校訂とその研究……………窪 徳 忠

昭和36年度

中国16世紀以降の村落法の研究……………仁井田 陞

近代日本宗教社会史の研究……………小 口 偉 一

附1. 東洋学会とその機関誌「東洋文化」

東洋学会は、東洋文化全般に関する総合研究を促進するため、本研究所関係者を中心として昭和19年7月に設立され、その主な事業として、機関誌「東洋文化研究」を発行し、昭和25年にそれを改題して「東洋文化」を発行してきた。昭和32年1月以降に発行した「東洋文化」の論文は以下のとおりである。

第 22 号 (昭和32年1月)

高麗時代における土地の嫡長子相続と奴婢の子女均分相続……………旗 田 魏

中国における国家資本主義……………本 橋 渥

明治前期地方制度の考察（一）——特に村を中心として——	大島美津子
第 23 号（昭和32年2月）	
明治前期地方制度の考察（二）——特に村を中心として——	大島美津子
茅盾と自然主義——ゾラを中心に——	高田昭二
資料紹介 香川県農民運動の史的考察	山名伸作
第 24 号（昭和32年3月）	
戦後の農地改革と日本の農業	飯塚浩二
諏訪製糸業地域の変貌過程——農業と工業の結合関係をめぐって——	江波戸昭
第 25 号（昭和33年3月）	
中国の農村を視察して	近藤康男
岡松参太郎博士の台湾旧慣調査と華北農村慣行調査における	
末弘巖太郎博士	福島正夫
中国旧慣の調査について——天海謙三郎氏をめぐる座談会——	
第 26 号（昭和33年12月）	
東大新収の「メソポタミア初期王朝時代男子頭首像」について	新 規矩男
マラガ産脊椎動物化石	高井冬二
イラク人の形質人類学的研究	
——ミズラ、スデーレの二地方型——	池田次郎
イラン高原における美術調査（1956年）	深井晋司
東地中海沿岸の古代遺跡	堀内清治
東南イラン採集の先史土器	曾野寿彦
イラン先史土器文化の変遷	江上波夫
≪歴史≫の断絶	桑野茂
第 27 号（昭和34年3月）人民公社特集	
人民公社成立についての一考察	古島和雄

中国工業化政策の発展と人民公社……………	本橋	渥
人民公社の法的地位……………	福島	正夫
都市の人民公社・メモ——鄭州市における—— ……	竹内	実
座談会・人民公社の諸問題		
第 28 号 (昭和34年12月) 現代インド特集		
アジア研究について……………	飯塚	浩二
インド農業問題の展望……………	深沢	八郎
近代インド政治思想の史的考察……………	中村	平治
インドの農業改革の推移……………	古賀	正則
座談会・インドの労働事情について		
第 29 号 (昭和35年3月) 西アジア特集		
現代イスラム研究の問題——西アジア特集に寄せて—— ……	小口	偉一
アラブ世界の政治的断面……………	西野	照太郎
アラブ連合共和国の農業改革をめぐる理論的諸問題……………	中岡	三益
パキスタン国家形成におけるイスラム思想の役割……………	加賀谷	寛
第 30 号 (昭和36年3月) 東南アジア特集		
東南アジアの輸出構成と一次産品問題……………	橋本	秀一
低開発国の経済開発における資源の適正配分		
——特に工業と農業との関係について—— ……	原	覚天
フィリピン農業の動向……………	高橋	彰
第 31 号 (昭和36年3月)		
経済成長と産業部門別生産性——クズネッツ論へのコメント—— ……	川野	重任
モンゴル人民共和国の社会主義の新憲法……………	坂本	是忠
インドにおける現代インドの研究——方法論上の諸問題—— ……	中村	平治
組合製糸地域の変貌過程(1)——碓氷社を中心に——……………	江波戸	昭朗
	梶原	史朗

附2. 東洋文化研究所図書閲覧規定

昭和24年4月6日決定

昭和32年2月1日改正

1. 書庫に入つて図書を検索するには、図書係員の承諾を得なければならない。
2. 本研究所の教授、助教授、講師、助手および研究員以外の者は、書庫に入つて図書を検索することができない。
ただし、本研究所または旧東方文化学院の旧関係者、ならびに本研究所以外の本学教授、助教授、講師および助手で、所長の承認を得た者は、この限りでない。
3. 本研究所の教授または助教授の紹介により、所長が図書の閲覧を許可した者には、有効期間1カ年以内の閲覧票を交付し、図書係室で閲覧させる。
ただし、前記の紹介者の紹介によつて臨時に図書を閲覧しようとする者には、所長の許可があつた場合、閲覧票を交付せずに、図書係室で閲覧させる。
4. 本研究所または旧東方文化学院の旧関係者、ならびに本研究所以外の本学教授、助教授、講師および助手で、所長の承認を得た者には、有効期間1カ年以内の特別閲覧票を交付し、図書係室で図書を閲覧させる。
5. 図書の借出は、1人合計20部を越えてはならない。図書の借出には、各自の図書帳簿に定められた事項を記入し、かつ借出および返却の際には、出納手に帳簿の照合を受けなければならない。
6. 図書の借出期間は3カ月（雑誌は1カ月）とし、継続して借出の必要がある時は、手続を更新しなければならない。
7. 春秋2季の図書点検の際には、借出した図書を全部返却しなければならない。
8. 貴重図書は、所長の承認を経なければ借出せない。
9. 未整理の図書は、図書主任の承認を経なければ借出せない。
10. 借出した図書を他人に転貸してはならない。
11. 借出した図書を本研究所の研究室以外に帯出してはならない。

12. 図書室備付の図書は、同室以外に帯出してはならない。
13. 図書を書庫または図書係室以外の室に常置するには、教授会の承認を必要とする。
14. 本学の他研究所、学部が、その図書を本研究所の研究室まで帯同を許可する場合には、本研究所も、図書を他研究所、学部の研究室まで帯同することを認める。本研究所からの帯出図書に対しては、本研究所の規定を適用する。
15. 図書を破損または亡失した時には、弁償させる。弁償の方法は教授会の議による。

昭和 36 年 11 月 15 日 発行

東京都文京区大塚町 56

編集兼
発行

東京大学東洋文化研究所

東京都千代田区神田美土代町 6

印刷所

株式会社明德印刷出版社